

ピラサ

アイヌの人たちの歴史・文化

衣服

19世紀後半ごろまでのアイヌの人たちの伝統的なアミノ(衣服)は、和人が江戸時代後期に記した『蝦夷嶋奇観』などに見ることができ、その中には伝統的に作り上げてきたものと、他の民族との交流、交易によって手に入れたものがあります。男性用、女性用の区別はほとんどなく、北海道内の各地域やサハリン(樺太)など、その地方の特徴的な文様を施したものが多く見られます。



現在のアイヌの人たちの衣生活の中心は、洋服や和服などであり、普段の生活の中で民族独特の衣服を着ることはあまりありませんが、祭りや儀式などでは着用しています。

<様々な素材の衣服>

伝統的な衣服

樹皮衣(アットゥシ)

オビョウニレ、シナノキなどの樹木の内皮を細く裂いて糸を撚り織りだした衣服。今日伝えられている代表的な衣服。

獣皮衣(ウル)

クマやシカなどの陸上動物や アザラシ、ラッコ、オットセイなどの海中動物の皮を使った衣服。

魚皮衣(チェブール)

サケ、マス、イトウなどの魚皮を数十枚はぎあわせて作る衣服。

鳥羽衣(ラブル)

エトビリカなどの海鳥やワシ、タカの羽毛付きの皮を縫い合わせて作った衣服。

草皮衣(テタラベ)

イラクサなどの内皮の繊維で織った、糸が細く、色は白っぽい衣服(樺太で多く見られる)。

交易で得た衣服

絹衣

17世紀後半に中国との交易で手に入れた絹織物、日本語で山丹服、蝦夷錦(官服)と呼ばれる衣服や、同時期に本州方面から入った小袖、打掛、陣羽織などがあります。これらは、晴れ着用と交易用品としました。

木綿衣

19世紀前半に、本州では、木綿の古着取引が盛んに行われており、アイヌの人たちは、古着を入手し、テープ状に布を切り伏せて置布とした上に刺繍を施し、木綿衣をつくりました。

アイヌ文様

「モレウ」と呼ばれる渦巻き文様、「アイウシ」と呼ばれる括弧文様を組み合わせた刺繍が多く見られます。文様の多くは一筆描きによる刺繍で、布を半分に折り、さらに半分にして文様の配置構成をするという原則で作られています。衣服の開口部である衿周り、袖口、裾周りにめぐらされる刺繍は、ウェンカムイ(悪い神)が入らないように隙間なく刺し、様々な形のキラウ(角突起)が施されています。

これらの文様は、沿海地方やサハリン(樺太)地方に住む、先住民族の衣服と文様がよく似ており、相互交流によって影響しあっていたことがわかります。また、特別な儀式のときに身に付ける削りかけの冠のほか、男性用飾り太刀、耳飾り、首飾りなどのように、他の民族から手に入れた装飾品が数多くあります。

今日に伝わる衣服と文様

近年、様々な分野でアイヌの人たちの伝統文化の見直しや復興が進む中、儀式に参加するときや、歌や踊りを披露するときなどに晴れ着を着たり、そのための衣服を作ったりすることが増えてきました。そのデザインを現代の衣服や装飾品などに活かすことも試みられるようになり、衣服の作り方を調べたり学んだり、刺繍の講習会、製作品のコンクール、展覧会なども行われています。このように次世代へ残したい宝物として、アイヌ文様は、平成13年度に「北海道遺産」に選ばれ、継承されています。

【出典】 『アイヌの人たちとともに』 その歴史と文化 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構
『ボン カンピソシ』アイヌ文化紹介2・着る 北海道立アイヌ民族文化研究センター編
『衣服のかたち』 津田命子(『別冊太陽 先住民アイヌ民族』所収)



<アットゥシ>

<蝦夷錦>

アイヌ語 豆知識

今回は、衣服の他に身に付けるもののアイヌ語の一例を紹介します。

マタンブシ(matampus) = 男性用鉢巻き タマサイ(tama-say) = 首飾り ニンカリ(ninkari) = 耳輪
サパンペ(sape-un-pe) = 冠 コンチ(konci) = 帽子、頭巾 カサ(kasa) = 笠
ホシ(hos) = 脚絆 テクンペ(tek-un-pe) = 手甲(労働や旅行で用いる。儀礼には使わない)
キロ(kiro) = 靴(獣皮) ケレ(ker) = 靴(鮭皮)
マンタリ(mantari) (日本語から転化) = 前掛け エムシアツ(emus-at) = 刀をかける帯

【出典】『菅野 茂のアイヌ語辞典』 菅野 茂 著 三省堂

ねらい

アイヌの人々の歴史や文化を調べたり体験したりすることを通し、アイヌの人々の歴史や文化を尊重するとともに、互いを認め合う共生の心を育成する。

主な活動内容

第5学年の総合的な学習の時間において、一年間を通し、アイヌの人々の歴史や文化についての学習をしました。具体的な学習内容は次のとおりです。

出会い	道立北方民族博物館の見学
体験	阿寒アイヌ工芸協同組合におけるムックリの制作、古式舞踏見学、講話、生活館の見学
調査	文献やインターネットによるアイヌの人々の歴史や文化についての調査活動
追究	アイヌの方をゲストティーチャーに招いた体験活動や調査の過程における疑問点についてのインタビュー活動等
発表	学習発表会

子どもの感想

ムックリを鳴らすのがすごく難しかった。最初は音が出なかったけれど、何回か練習して音が出た時は、とてもうれしかった。演奏していた女の人がとてもきれいに音を出していて驚いた。

古式舞踏を見たときは、変わった踊りだと思った。でも、歌声がきれいで、一番最初の「すわり歌」は、特に感動した。そして、一緒に踊れておもしろかったし楽しかった。

阿寒からアイヌの方が教室に来て、「マレブ」や「イナウ」を実際に見せてくれた。自然を使って、いろいろな道具を作ってすごいと思った。

アイヌの方のお話で、「札幌」がアイヌ語ということを知った。

今まで、アイヌの人たちのことにあまり関心がなかったけれど、今回の学習でもっともっと知りたいと思った。そして、アイヌの人たちと仲良くしたいと思った。



阿寒アイヌ工芸協同組合の方を招いた授業風景

アイヌの人たちの歴史・文化等に関する指導の実践例の紹介

～北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集から～

網走市立網走小学校(平成17年度北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集全文掲載)
 <研究主題> オホーツクの潮風の中、個が響き合う教育課程の創造

～一人一人の思いや願いを生かした「丘の子学習」の展開～

<研究の概要>

総合的な学習の時間「丘の子学習」の第5学年の「網走を詳しくさぐる」において、アイヌの人たちの生活やニポポと網走市の関係など、身近な環境の中から自分が興味をもち、もっと詳しく調べてみたいと思ったことについて、課題を設定し、調査活動や話し合いなどをとおして問題解決を行い、調べたことをわかりやすくまとめ、発表し、地域の伝統や文化、歴史について理解を深めている。